

第21回 地図地理検定のご案内

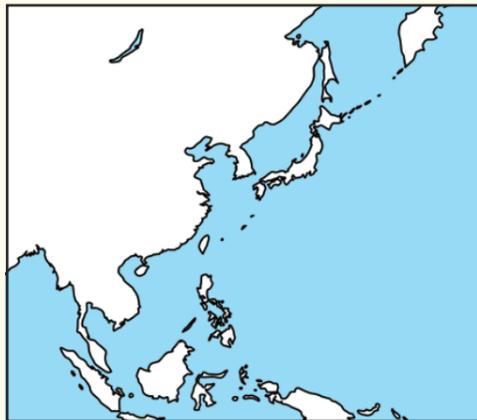
- (1) 試験日 : 2014(平成26)年6月22日(日)
- (2) 試験時間/問題数
 地図地理検定(一般) : 13:30~14:20・4択形式25問・100点満点
 地図地理検定(専門) : 15:00~16:00・4択形式25問50点、記述式10問程度・50点、100点満点
- (3) 実施都市及び会場 札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡
- (4) 受験資格 どなたでも受験できます。年齢等、一切の制限はございません。

地図地理検定 検索

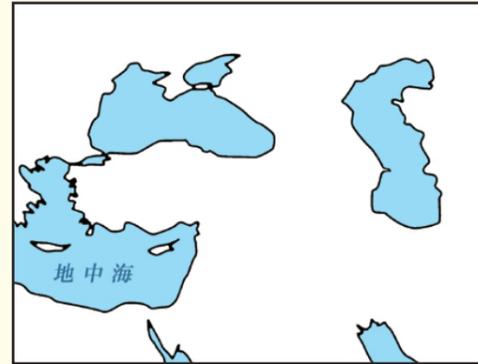
「専門」では、今回(第21回)より「記述式問題」を出題します。

地図地理に関する深い知識と、より実践的な能力を判定することを目的として、「専門」では従来の4択形式に加え、解答を直接記入していただく記述式問題を導入いたします。「一般」は、従来通り全問4択形式です。

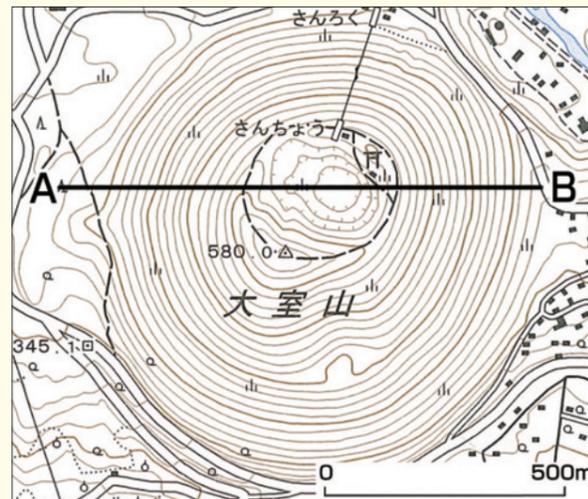
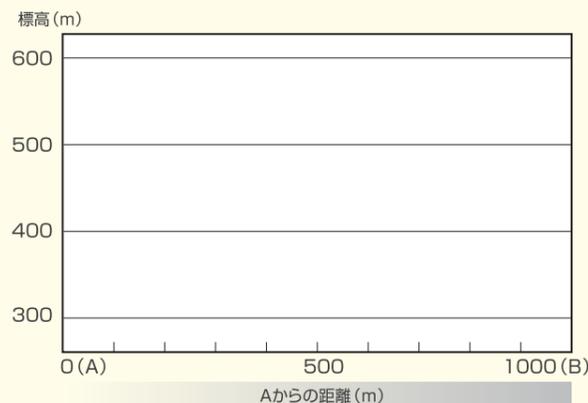
例題 1 右の地図中に、北回帰線を実線—で記入せよ。
 なお、右の地図はミラー図法である。



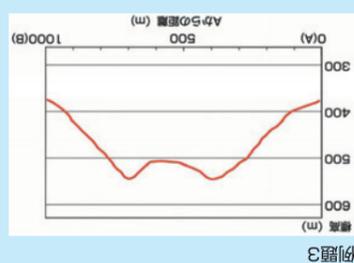
例題 2 2014年の冬季オリンピックの開催都市であるソチの位置を、右の地図内に×印で記入せよ。



例題 3 右の地形図中の直線A~Bの地形断面図を、下の回答欄の枠内に記入せよ。
 なお、A~Bの距離は、1,000mとする。



(2万5千分1地形図「天城山」拡大・加筆)



図解欄 図解欄

定住自立圏構想推進シンポジウムin伊勢 ~定住自立圏構想の今後の展開について~

弊会では、総務省が推進する「定住自立圏構想」についてポータルサイトを開設し(<http://www.kokudo.or.jp/service/teijyu.html>)、その内容と今後の取り組み、並びに関連した情報を紹介しています。
 今号では、去る1月に総務省主催で開催されました『定住自立圏構想推進シンポジウムin伊勢~定住自立圏構想の今後の展開について~』のご紹介をします。

開催報告

主催:総務省
 開催日時:平成26年1月17日(金)13:00~17:00
 開催場所:伊勢市観光文化会館 大会議室(三重県伊勢市岩渕1-13-15)
 対象:市町村長、地方自治体職員、定住自立圏取組関係者、地域住民等
 参加者数:154人

開催趣旨

定住自立圏構想については、平成25年度より、これまでの取組の評価等を踏まえ、各地方自治体の役割に応じた適切な財政措置のあり方等について検討を行うとともに、圏域の都市機能の高度化に向けて、官民が連携して取り組むプロジェクトモデルの調査・検討を行うため、「定住自立圏構想の今後のあり方に関する研究会(座長:後藤春彦・早稲田大学創造理工学部部長)」を開催しています。
 この研究会の検討状況を御紹介するとともに、基本的な考え方や先進事例の発表、未取組団体が抱える課題の共有を行うことで、議論を深め、各圏域の取組に展開していくことを目的としてシンポジウムを開催しました。

シンポジウム概要

特別講演「定住自立圏構想の現状と今後の展開」
 講演者:総務省地域力創造審議官 関 博之 氏
 取組事例報告「しっかりとした秩父の絆~ちちぶ定住自立圏の取組~」
 報告者:秩父市長 久喜 邦康 氏
 パネルディスカッション「新たに定住自立圏に取り組むに当たって」
 コーディネーター: 総務省地域自立応援課長 馬場 竹次郎氏
 パネリスト: 伊勢市長 鈴木 健一 氏
 滝川市長 前田 康吉 氏
 函館市企画部長 谷口 諭 氏

定住自立圏構想推進シンポジウムin伊勢

～定住自立圏構想の今後の展開について～の概要

開催日時:平成26年1月17日(金) 13:00～17:00

開催場所:伊勢市観光文化会館 大会議室(三重県伊勢市岩淵1-13-15) 参加者数:154人

報告

秩父市長 久喜邦康氏「しっかりとした秩父の絆～ちちぶ定住自立圏の取組～」
ちちぶ定住自立圏では、圏域構成市町の首長等が参加する推進委員会を設置し、事業を決定することで柔軟に即応性のある事業実施が可能となった。ちちぶ医療協議会を組織し、医療スタッフの確保・救急医療体制の充実等の取組を行うなど、10分野20項目の取組を実施している。共通のロゴマークを作成し、HPや印刷物に掲示することで圏域住民への周知を図るとともに、首長間の信頼関係をもとに、圏域の「絆」を深めることが重要との報告があった。

パネルディスカッション

「新たに定住自立圏に取り組むに当たって」

●伊勢市長 鈴木健一氏(パネリスト)

20年後の地域の人口構造を細かく推計し、今の段階から何をしなければいけないのか、行政サービスをどのように展開していくべきなのかなど、議論しているところである。地域経営に力を入れて、交流・定住人口を増加させる取組の強化を進めていきたい。

●滝川市長 前田康吉氏(パネリスト)

広域行政を進める上で、首長同士の信頼関係や、中心市として連携市町村に対して責任を持つことが大事である。今後のビジョン策定にあたり、医療、地域防災、鳥獣対策、人材育成を重点項目に位置付けて進めていきたい。

●函館市企画部長 谷口 諭氏(パネリスト)

喫緊の課題であるドクターヘリの運航と、新幹線の開業に合わせた広域観光といった取組を中心に据えて、必要最小限の取組から始めている。圏域面積が広く、自治体によっては取組姿勢に温度差があるが、中心市として連携市町村とのバランスを取っていきたい。

●総務省地域力創造グループ地域自立応援課長 馬場竹次郎氏(コーディネーター)

定住自立圏構想の推進にあたっては、市町村間との連絡調整などで都道府県のサポートが非常に重要である。総務省としては、財政的な支援の拡充のほか、全国の取組事例をご紹介し、各地域で様々な取組が行われるようサポートを行っていきたい。

特別講演

総務省地域力創造審議官 関 博之氏「定住自立圏構想の現状と今後の展開」

経済財政と改革の基本方針(平成25年6月14日閣議決定)の中では、「定住自立圏構想を強力に推進していくため、圏域において各地方自治体が果たすべき役割に応じた適切な財政措置の在り方を検討する」とされていることから、来年度(平成26年度)より現行の特別交付税の拡充を予定している。また、市町村域を越えた圏域において、産学金官民が連携して、人・モノ・金等の流れを生み出すため、産業振興や地場産品のブランド化などについて予算を計上しているため活用していただきたい。

『富岡製糸場と絹産業遺産群』世界遺産登録へ

日本が世界文化遺産に推薦していた『富岡製糸場と絹産業遺産群』(群馬県富岡市など)について、2014年6月にドーハで行われる第38回世界遺産委員会で正式登録される見通しとなっています。日本の世界遺産として産業遺産が登録されるのは、2007年の『石見銀山遺跡とその文化的景観』以来2例目です。「富岡製糸場」が正式に登録されれば、日本の世界文化遺産は昨年の『富士山—信仰の対象と芸術の源泉』に次いで14件目、世界自然遺産も含めた世界遺産では18件目となります。

富岡製糸場は1872(明治5)年に設立された日本初の官営器械製糸場で、フランス人技師の指導により建設されました。富岡製糸場の世界遺産としての価値は下記のようなものといわれています(「富岡製糸場パンフレット参照」)。

「富岡製糸場ではフランスの技術導入から始まり、日本独自の自動繰糸機の実用化まで、製糸の技術革新が絶え間なく行われてきました。

『富岡製糸場と絹産業遺産群』は、高品質な生糸の大量生産に貢献した、19世紀後半から20世紀の日本の養蚕・製糸分野における世界との技術交流と技術革新を示した絹産業に関する遺産です。日本が開発した生糸の大量生産技術は、かつて一部の特権階級のものであった絹を世界中の人々に広め、その生活や文化をさらに豊かなものへと変えました。」

『富岡製糸場と絹産業遺産群』の構成資産は、富岡製糸場のほか、近代養蚕農家の原形となった『田島弥平旧宅』(伊勢崎市)、国内標準になった養蚕法「清温育」を確立した『高山社跡』(藤岡市)、岩の隙間から吹き出す冷風を利用した蚕の卵の貯蔵施設『荒船風穴』(下仁田町)の3施設です。

富岡製糸場は1939(昭和14)年から片倉工業が運営していましたが、安価な化学繊維の台頭等によって1987年に操業停止となりました。その後も、所有する片倉工業が億単位の維持費を毎年負担して2005年まで管理を続けたため、画期的な養蚕・製糸技術がシステムとして丸々残っているところが高く評価されたと言われています。2005年からは市有として富岡市が管理しています。



世界遺産とは、1972年のユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(世界遺産条約)に基づいて世界遺産リストに登録された、遺跡、景観、自然など、人類が共有すべき「顕著な普遍的価値」を持つ物件のことで、移動が不可能な不動産やそれに準ずるものが対象となっています。日本は、先進国では最後の1992年に世界遺産条約を批准し、同年の6月30日に125番目の締結国となりました。締結の翌年に、文化遺産2件、自然遺産2件の登録が認められています。第37回世界遺産委員会(2013年)終了時点で、世界遺産は981件登録されていますが、その内訳は文化遺産759件、自然遺産193件、複合遺産29件です。現在、47都道府県中20都道府県に日本の世界遺産17件(文化遺産13件・自然遺産4件)があります。

日本の文化遺産(顕著な普遍的価値をもつ建築物や遺跡など)登録順(2014年5月現在)

- 法隆寺地域の仏教建造物(1993年12月)
- 姫路城(1993年12月)
- 古都京都の文化財(1994年12月)
- 白川郷・五箇山の合掌造り集落(1995年12月)
- 原爆ドーム(1996年12月)
- 厳島神社(1996年12月)
- 古都奈良の文化財(1998年12月)
- 日光の社寺(1999年12月)
- 琉球王国のグスク及び関連遺産群(2000年12月)
- 紀伊山地の霊場と参詣道(2004年7月)
- 石見銀山遺跡とその文化的景観(2007年6月)
- 平泉—仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群(2011年6月)
- 富士山—信仰の対象と芸術の源泉(2013年6月)

日本の自然遺産(顕著な普遍的価値をもつ地形や生物多様性、景観美などを備える地域など)登録順(2014年5月現在)

- 屋久島(1993年12月)
- 白神山地(1993年12月)
- 知床(2005年7月)
- 小笠原諸島(2011年6月)

※弊会が毎年発行しているカレンダー付き「全国市町村マップ」では、平成26年版より日本にある世界遺産を写真付きで紹介しています。平成27年版には上記の『富岡製糸場と絹産業遺産群』が追加されます。「全国市町村マップ」は10月ごろより弊会HP(<http://www.kokudo.or.jp/service/calendar.html>)にて無償配布の案内開始予定です。

